

志中だより

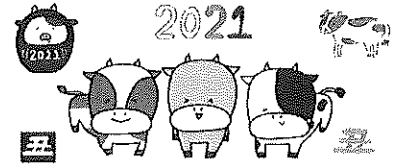
【 校 訓 】

進取 誠実 協力

南三陸町立志津川中学校 No.23 令和3年1月6日 文責教頭

～新年を迎えて～

令和3年が始まりました。明けましておめでとうございます。職員一同、今年も心新たに頑張ってみます。昨年同様、ご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。



さて、「1月は行く」、「2月は逃げる」、「3月は去る」とよく言われます。これは、1月の「い」、2月の「に」、3月の「さ」を取って、1月・2月・3月はいろいろ忙しく、あっという間に過ぎてしまうということを表した言葉です。授業日数は、1・2年生は54日、3年生は46日しかありません。子供たちには、ぜひ1日1日を大切に、噛みしめるように毎日の学校生活を送ってほしいと願っています。

「3学期は、次の学年のゼロ学期」という言葉があります。1年生にとっては2年生のゼロ学期、2年生にとっては3年生のゼロ学期、3年生にとっては次の上級学校1年生のゼロ学期です。4月に大きくジャンプ（飛躍）するためには、その手前の確実な力強い助走が大切です。これからの、1月・2月・3月を、思いっきりジャンプするための大切な助走期間だと考えて、毎日の学校生活を大切に過ごしてほしいと思います。

— 始業式での高橋校長の式辞を紹介させていただきます —

新年あけましておめでとうございます。短い冬休みでしたが、皆さんは有意義に過ごしたでしょうか。2学期の終業式で、私は「冬休み中、自己マネジメント力を高めることに挑戦してください。」という話をしました。自分の目標に向かって計画を立て、実践し、振り返り、次に生かしていこうとする意欲を高めることができましたか。

さて、1月は3学期のスタートであるとともに、新しい年の始まりでもあります。新年のスタートにあたり、冬休みの生活を振り返ると同時に、生徒の皆さんへの期待を述べたいと思います。

まずは、最高学年の3年生の皆さん、いよいよ受験を含めた進路実現に向け、実力を発揮する機会がやってきました。自分や家族、担任の先生方を信じて、しっかりと学習や面接などの準備を進めてほしいと思います。皆さんの進路の夢が叶うことを心から願っています。また、残り少ない中学校生活です。3年間の集大成をこの3か月間で、一生記憶に残るような良い思い出を作してほしいと思います。

2年生の皆さんには、4月から最高学年になることを意識して、今まで以上に真剣に学習に取り組み、部活動、学校行事等においてリーダーシップを発揮してほしいと思います。そのためには、「できない」「やれない」という後ろ向きではなく、「できる」「やってみよう」というチャレンジ精神で、物事に取り組むことを願っています。

1年生の皆さんには、2学期までの学習を振り返り、中学生として自分の学習方法を確立してほしいと思います。また、部活動や生徒会・委員会活動でも責任が大きくなってきます。4月からは、後輩が入学して、皆さんは先輩になります。そのことを意識して、今できることに100%全力を尽くし、成長することを願っています。(中略)

昨年、皆さんが創意工夫を凝らしながらも、様々な学校行事や諸活動に取り組んでくれました。生徒の皆さんや家族、そして先生方が、それぞれの実践を再確認し、新たなる挑戦を模索しながら充実した志津川中学校の教育活動を目指していきたいと思います。

そして、生徒の皆さんが、当たり前のことを地道にやり続けることで、それぞれの道が開ける年になることを願い、3学期の始業式の式辞といたします。

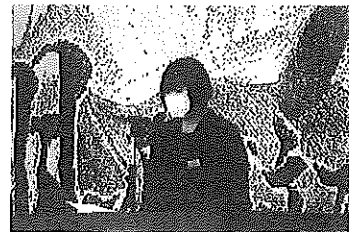
「3学期の抱負」



1年 西城 一翔さん



2年 菅原 優花さん



3年 佐藤 綾音さん

今日の始業式で学年を代表して3名の生徒がスピーチを行いました。紹介させていただきます。

1年生代表の西城一翔さん(1-1)は、「後期学級委員としてクラスの人に信頼されるよう、常に手本となるような行動を心掛けていきたい。学習面においては、冬休みの課題を終わらせ、テストに向けて準備をすることができた。自己ベストの点数が取れるよう頑張りたい。」と発表しました。

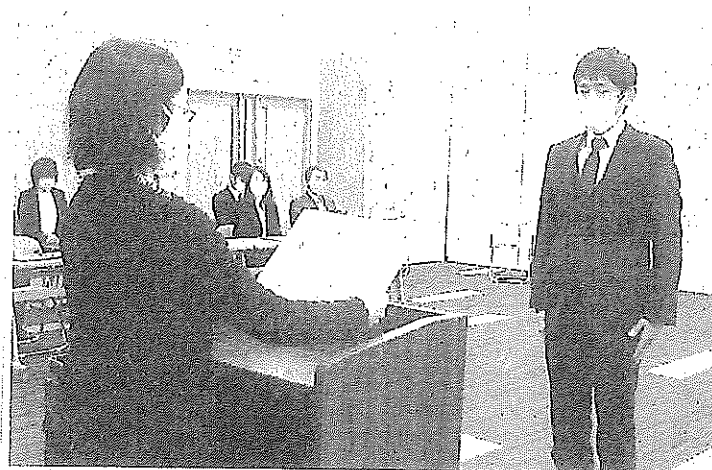
2年生代表の菅原優花さん(2-2)は、「3学期はまとめの学期。自分の不得意な教科を克服し、3年生の受験に備えたい。健康面では生活リズムを整え、ウイルスに負けない体を作りたい。生活面では、人前で発表するのが苦手なので、自分の意見をしっかり話すことができるようになりたい。目標を達成するために日頃の積み重ねを大切にしたい。」と発表しました。

3年生代表の佐藤綾音さん(3-1)は、「冬休みは入試に向けて危機感を持って学習した。学年全体の雰囲気は、まだ完全に受験モードというわけではない。「受験は団体戦」という言葉があるとおり、一人一人の思いや行動が全体の結果につながる。支え合い、励まし合いながら学習に励みたい。」と発表し、「2021年が、志津川中学校に関わる全ての人にとって、幸せな1年になりますように。」と締めくくりました。

3名とも、一言一言に気持ちを込め、爽やかに発表しました。素晴らしい1年になりますように。

本校1学年主任の 後藤 祥教諭 が宮城県優秀職員に選ばれ、昨日表彰を受けましたので紹介させていただきます。

↓ 研修の成果物の一場面



表彰伝達を受ける後藤教諭

県教育委員会は4日、教育活動に顕著な功績があった公立学校

後藤教諭(志津川中)が優秀に

県教委 職員表彰 管野主任技師(本吉)は優良

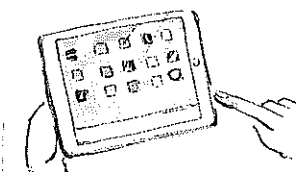
の職員をたたえ、28の個人と団体を表彰した。気仙沼・本吉地方からは、南三陸町立志津川中学校の後藤祥教諭(41)が優秀職員、本吉響高校の管野輝明主任技師が優良職員に選ばれた。

後藤教諭は昨年度、県総合教育センター(名取市)に長期研修員として赴任。他の職員3人とICT(情報通信技術)教育を推進する、教員向けのタブレット端末研修教材「+タブレ2.0」を開発した。

センターのホームページから閲覧できるデジタル教材で、タブレットの操作方法や、授業での活用方法を動画で分かりやすく説明している。

後藤教諭は昨年開催された「学習デジタル教材コンクール」(公益財団法人学習情報研究センター主催)では、最高賞の文部科学大臣賞(団体)を受賞している。県庁で表彰式が予定されていたが、新型コロナウイルスの影響で中止となり、県気仙沼合同庁舎で伝達式を行った。気仙沼教育事務所の前々木利佳子所長が後藤教諭に表彰状を手渡した。

後藤教諭は「名誉ある賞をいただき、身を引き締まる思い。今後もICTを活用した教育の整備推進に努めたい」とあいさつした。本吉響高校の管野主任技師は校庭の樹木管理や環境整備などに尽力した。後日、同校で表彰伝達が行われる。



後藤教諭は昨年開催された「学習デジタル教材コンクール」(公益財団法人学習情報研究センター主催)では、最高賞の文部科学